

2018年度 第4回 日本建築学会関東支部埼玉支所役員会 議事録

日 時：2018年12月27日（木）18:00～21:00 LE VANT（埼玉建産連会館1階）

出 欠：■時田芳文 ■市川毅 ■樋口和男 ■市川均 ■宇杉和夫 ■大竹由夏 □梶芳晴 ■木下芳郎 □朽木宏
■桑田仁 □佐藤泰 ■白江龍三 ■徐華 ■鈴木弘樹 ■高岡敏夫 ■戸田都生男 □永峰麻衣子 ■原口剛
■日色真帆 ■平野隆 ■古里実 ■三浦清史 □水村容子 ■八代克彦 □若林祥文 □宗政由桐（敬称略）
■黒田智之（事務局） ■隅倉陽子（経理）

配布資料：2018年度第4回役員会 議事次第

行田商工センター ご利用案内

商工センター見学日に撮影された内観写真（写真1～5）

蔵の前の展示例の参考写真（写真6～9）

1. 樋口和男氏（埼玉支所顧問）の瑞宝小綬章叙勲について

- ・樋口氏へお祝いを謹呈し、樋口氏からご挨拶をいただいた。

2. 日本建築学会関東支部役員会報告について（時田支所長）

- ・支所長の出席率が50%を下回った。
- ・今後、支部会費の管理は学会が行うことを検討されており、支部活動への影響も生じると推測される。

3. 2019年度日本建築学会関東支部総会について（時田支所長）

- ・日時：2019年5月8日（水）
- ・場所：熊谷駅 駅ビル・アズ6階
- ・当日の予定（案）
 - 12:00～ 受付
 - 12:30～15:00 ツアー（熊谷駅～国宝・妻沼聖天山～熊谷ラグビースタジアム～熊谷駅）
 - 15:30～ 総会
 - 16:15～ 懇親会（場所：駅ビルのビアホール、会費3000円、うちわ祭りのお囃子の披露など。雨天時は近隣にて行う）
- ・傾向として、参加者は30名程
- ・開催予算は40万円程
- ・支所役員は参加をすること
- ・以前大宮で開催されたときのように、毎回、各支所により盛大になる傾向があるため、今回は質素にする要望が支部よりでている

4. 2019年度「埼玉住まい・まちづくり交流展」について

- ・中心メンバーである八代、大竹両氏により、配布資料の「第2回会議 議事録」の説明が行われた。
- ・タイトルの「2018年度 埼玉住まい～」は正しくは「2019年度 埼玉住まい～」に訂正。（大竹）
- ・タイムスケジュールは2月頃までに決定する。
- ・議事録にある9項目について順に議論を行った。以下に内容を記す。

【2. 会場とスケジュールについて】

- ・日程の選定について補足説明。4/21（日）は行田市長選挙投票日であるが、「第15回行田蔵めぐりまちあるき」は日程を変更しないため、本会も同日開催とする。（時田）

【4. 展示について】

- ・パネルは各大学に於けるまちづくり活動に関する内容を一つの案としているが、テーマについて議論が交わされた。
- ・展示パネルのテーマには地域と大学・研究室の連携を具体的に示す必要があること、蔵の改修と蔵のまちづくりは異なる

- る活動なので、蔵とまちづくりの関係性も明示すべき。(宇杉)
- 研究室活動の事例として、蔵による行田市の認知度アップ、行田市における団地の改修が挙げられる。(八代)
- ・参加大学について、現段階では決定していない。
 - 建築学、建築教育の側面と日本建築学会が主催する活動として、目的とスタンスを再確認すべき。(宇杉)
 - 学生のために有益な展示内容にすることが大切では？例えば、現役の学生の発表の場、今年度に卒業する OBOG の地域をテーマにした卒論や卒計を発表する場として。(市川均)
 - 設計監理協会主催の卒業設計コンクールの出品作品や受賞作品を展示することは可能である。(樋口)
- ・研究室活動、学生の発表、それぞれ可能性はある。(桑田)
- ・前回の寄居町での開催のときは、事前に町を調査して、まちづくり案を提案したので、今後、行田市のまちを調査して展示内容を検討する。(徐)
 - まちづくりに関する既往研究や学内の他研究室と協同という形も可能性がある。(八代)
- ・展示方法の検討。蔵の前に展示した場合、蔵の改修案と捉えられないか？蔵本体と展示内容にズレが生じるので、分散型よりも集約型の方が理解しやすいのではないか？(日色)
 - 15ヶ所の蔵は街中に集中しているので、まちあるきによって街の構造を体感することと、人が街を歩くことで賑やかな二日間にするねらいがある。(市川均)
 - 街の構成はコンパクトなので、分散型も集約型も可能性はある。(古里)
 - スタンプラリーを行うか？蔵めぐりではスタンプラリー＋地図がある。今後検討。
- ・TEKUTEKU の活動で過去に5、6回程、行田のまちあるきを行っているが、まちの変化が興味深い。(古里)
 - 交流展の参加者の範囲拡大を検討する。そこに訪れた人々の外の目によって、行田がどのように写っているか、それら意見をまちに伝達し、今後の発展に役立てたい。(八代)
- ・行田市、行田商工会との共催のため、市側の要望の確認が必要。(樋口)
- ・地元の人々が見落としている魅力的な物や場を発掘する視点が大切。例えば、利根大堰という施設、そこからの県内への水の流れ、古代蓮の景観。(樋口)

【6. シンポジウム】

- ・4/20(土)と21(日)の二本立てを構想している。藤村龍至氏(東京藝術大学美術学部建築科准教授/建築雑誌編集委員会委員長)に打診中である。(時田)
- ・4/20(土)は行田市商工センターを会場として借りることができないので、別会場を検討する。(八代)
 - 2018.12.29 付けの八代氏からのメールにて、ものづくり大学の大教室を確保し、代替案としての提案あり。

【7. 打上ちげ】

- ・打上げは土日、両日希望。(市川毅)

5. その他

- ・特になし